

平成 24 年 度

八代市議会経済企業委員会記録

審 査 ・ 調 査 案 件

1. 所管事務調査 …………… 1

平成 24 年 10 月 23 日 (火曜日)

経済企業委員会会議録

平成24年10月23日 火曜日

午前9時30分開議

午後4時38分開議（実時間 28分）

○本日の会議に付した案件

1. 所管事務調査

- ・産業・経済の振興に関する諸問題の調査
（商工観光部所管施設について（管内調査））
（八代港の整備の進捗状況について）

○本日の会議に出席した者

委員長 百田 隆 君
副委員長 前川 祥子 君
委員 太田 広則 君
委員 田中 茂 君
委員 古嶋 津義 君
委員 村上 光則 君
委員 山本 幸廣 君
委員 幸村 香代子 君

※欠席委員 君

○委員外議員出席者中発言の許可を得た者

君

○説明員等委員（議）員外出席者

商工観光部

商工観光部次長 宮村 明彦 君
重点港湾八代港営業隊長 高崎 正 君

○記録担当書記 増田 智郁 君

（午前9時30分 開会）

○委員長（百田 隆君） それでは、定刻となり定足数に達しておりますので、ただいまから

経済企業委員会を開会いたします。

◎所管事務調査

・産業・経済の振興に関する諸問題の調査（商工観光部所管施設について）

○委員長（百田 隆君） 本日は、当委員会の所管事務調査であります、産業経済の振興に関する諸問題の調査を議題として、商工観光部所管施設についての管内調査を行うこととしております。

また、先日の委員会招集にてお知らせしておりました案件以外にも、お手元配付のレジユメのとおり、執行部より発言の申し出がっておりますので、この件につきましても追加し、調査をいたしたいと思っております。

それでは、本日の日程は、皆様のお手元に配付してあります行程表のとおりですが、執行部から行程の説明を願いたいと思っております。

○商工観光部次長（宮村明彦君） はい。

○委員長（百田 隆君） はい、宮村商工観光部次長。

○商工観光部次長（宮村明彦君） はい。皆様、おはようございます。（「おはようございます」と呼ぶ者あり）本日は若干、今、雨模様でございますが、後ほど雨は上がるというふう聞いております。大変お忙しい中でございますが、一日、管内視察におつき合いいただきますよう、よろしくお願いいたします。

本日は、商工観光部の所管であります観光施設を中心として管内視察をしていただく予定で……。 （委員長百田隆君「座って」と呼ぶ）はい、座って説明させていただきます。予定しておりましたが、日程的にきょう一日しかとれないということでございますので、本日は泉町にあります観光施設の幾つかを御案内させていただきたいというふうに思っております。

で、きょうの視点といたしましては、昭和の六十二、三年ぐらいから施設整備が始まってお

りまして、平成7年ぐらいまで各施設が整備されているところですが、施設整備がされたときには非常に観光客が多かったということでございますが、残念ながら今、観光客が大分減ってきております。1つには、よそにもいろんな施設ができたということで、選択肢に乗ってこないというのものもあるのかなとは思いますが。

そういう中で、先日の決算委員会でもございましたが、修繕すべきところはちゃんと修繕し、そして工夫を凝らして、観光客の方々にまた来ていただけるよう、それなりに、それぞれ、施設ごとに努力をさせていただいているところですが、そういうようなものをつぶさにといいいますか、現状を把握していただきまして、いろんな御意見を賜ればということで、きょうは視察いただくことにしておりますので、よろしくお願ひいたします。

それでは、委員長から求められております行程表につきまして説明させていただきますので、表紙をおあけいただきまして、1ページをごらんいただきたいと思ひます。

市役所を9時40分に出発いたしまして、五家荘方面、大通峠のほうにまいりまして、10時50分ごろ頭地代替地のほうに着きます。で、11時10分ごろ下鶴で泉支所の職員と合流いたしまして、まず視察の1番目の施設でございます久連子古代の里を10分程度見ていただくということでございます。

なお、久連子古代の里ほか、いろんな施設の概要につきましては、2ページ以降につけておりますので、それをごらんいただければというふうに思ひます。

で、10分ほど見ていただきまして、緒方家、それから樅木平家の里のほうに12時40分ごろ到着いたしまして、こちらで食事をしていただきます。12時40分から13時30分程度まで、こちらで食事なし見学を考へるところです。

それで、その後、葉木の下屋敷を通過いたしまして、梅の木轟の公園の吊り橋ををごらんいただき、二本杉のほうに回りまして、おりてきまして泉支所のそばにあります農林産物流通加工施設をごらんいただきまして、4時ごろ市役所のほうに到着いたしまして、いろんな反省点、御指摘点につきましてお答えしたいというふうに考へております。

行程表につきましては、以上でございます。

○委員長（百田 隆君） ただいまの本日の行程について説明がありましたが、何か質疑ありませんか。（「ありません」と呼ぶ者あり）

○委員（田中 茂君） ちょっとよかですか。

○委員長（百田 隆君） はい。田中委員。

○委員（田中 茂君） もちろん、きょうは商工さんのほうの管轄ということですが、とういうことになろうかと思うんですけど、実は泉の大水害があつてですね、ヤマメの関係、これは農水ですかね、あつたんですが、これはこの行程からかなり外れとりますでしょうかね。

○商工観光部次長（宮村明彦君） はい。

○委員長（百田 隆君） 宮村商工観光部次長。

○商工観光部次長（宮村明彦君） はい。施設見学はできませんが、そのそばを通過するようにコースを組んでいます。

○委員（田中 茂君） はい。

○委員長（百田 隆君） ほかにありませんか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○委員長（百田 隆君） ないようでしたら、以上で質疑を終了します。

それでは、管内調査のため、しばらく休憩をいたします。

（午前9時35分 休憩）

（午後4時15分 開議）

○委員長（百田 隆君） 皆さん、大変お疲れ

さまでした。（「お疲れさまでした」と呼ぶ者あり）

それでは、休憩前に引き続き、経済企業委員会を再開いたします。ただいま視察してまいりました管内調査について、質疑、御意見等はありませんか。

○委員（幸村香代子君） はい。

○委員長（百田 隆君） はい、幸村委員。

○委員（幸村香代子君） はい、お疲れさまでした。（「お疲れさまでした」と呼ぶ者あり）

いずれの施設もですね、見せていただいて、きょうの視点のところである、やはり施設のですね、老朽化であるとか修理修繕であるとかっていうところを重点的につていうお話だったんですが、決算委員会のときにも少し意見を述べさせていただいたんですけれども、やはり、建てることにはですね、補助金だ何だっというふうに、いろいろこうついてくるんだけれども、やっぱり維持管理費、また修繕費つていうことについては、なかなかやっぱり、そういうところが厳しくて、一般財源をやっぱりつぎ込んでいくつていうことになっていくんだつていうふうに思います。で、国からの交付金があれば、そのときに使えるようなものを使つていくつうふうに。

しかし、やはり、何かがこう、何か事故が起きたから修繕をするとか、こう壁が落ちたからどうするとかつていうことではなくつて、やはり計画的にですね、きちんと計画を立てながら、できるだけ早い時期に、お金がかからない時期に修繕をしていくつていうことが必要なんだろうなつて。で、そういうことは計画的にやつていただくことが必要だろうつていうふうに思うし、特に、今回見せていただいたのは観光施設ですから、人が集まると。それつていうことからすれば、やはり安全性。そのことをやっぱり第一に考えなきゃいけないつてなんだろうつていうふうに思います。

そして、施策としては、その修理、修繕あたりにお金をつぎ込むつていうことではなくつて、やっぱり戦略的にその施設をどう使つていくか。どちらにしても集客が望める時期つていうのが秋だつたり、春だつたりつていうことなんだろうつて思います。じゃあ、そのときに滞在型的なですね、工夫をどうできるかつていうふうに戦略的に、観光つていうものを取り組んでいただきたいなつていうふうに思いました。

以上です。

○委員長（百田 隆君） はい。今のつて、いいですかね。

○委員（幸村香代子君） はい、意見です。

○委員長（百田 隆君） 意見だけでよかですね。

ほかにありますか。

○委員（田中 茂君） はい。

○委員長（百田 隆君） はい、田中委員。

○委員（田中 茂君） はい。きょうは一日、皆さん御苦勞さまでした。お世話になりました。

久しぶりにつていますか、五家荘もですね、見学させてもらったんですが、私たちもどちらかつていうと、合併前にはもうちょっと個人的にも足を運んだんじゃないかなつて感じをしております。ところが、えてして観光地とか何かあんまり変わらんなつていうこともあつてですね、それだけ若干遠のいているのかなつていうのもあります。これは一般の観光の方も、それは見えるんじゃないかつて思いますね。いかにリピーターをふやすかつていうことで、何年かしたら魅力、また変えてリピーターに来ていただくか。それが大事つて思うんですが。

きょう、東山ところの、あそこで別にチラシをもらったときにですね、五家荘地区の旅館・民宿案内つていうのが出てたんですが、それ見ますと、なんと12個もあるんですね、旅館関係が、旅館民宿ですね。案外、市民にも知られて

ないんじゃないか。私もそんなにあったかなという感じですね。それだけ、経営されてやっておられるということは、もう少し私たち、何と言いますか、市民も利用するというか。

もちろん魅力があつての利用ということだろうと思うんですが、なかなか八代の平野地の人でもですね、例えば老人会なんかにも私も言うんですが、逆に、天草なんかが老人会なんかも多いわけですね。だから、市内であつたらもう少し、海もいいけど山もいいよというのはですね、これはいろいろ案内の仕様もあると思うんですが、そうしながら五家荘でもやっぱり、要するに稼いでいただく。そうすることによってですね、先ほど出ました維持費等についてもそうだし、あるいは、もちろん、一般市民の皆さんは市民税として、あるいは固定資産税として払ってはもらうんですが。

特に、山間地の場合はどうしても梅雨どきとかですね、関連施設の災害復旧の費用がかかるということもあってですね。これは地形的にある面では仕方ないんですが、そういうこともあって、いかに稼ぎをしていただくかという。それを市が補助するかとか、あるいは補填するかとか、そういうことも大事だと思いますので、そういう観点からもですね、やっぱり市の施策として、いろいろもっともって考えていただくのがあるんじゃないかなと。私、今、具体的にどうということは申すあれもないんですが、ぜひ取り組んでいただければなと思っていますが、そこいら、次長、いかがでございましょうか。

○商工観光部次長（宮村明彦君） はい。

○委員長（百田 隆君） はい、次長。

○商工観光部次長（宮村明彦君） はい。今、私のほうの手元に持っておりますのが、泉、八代市の観光統計の推移なんですけども、泉地区が平成17年、宿泊者が約7300人でございます。それと日帰り客が15万人。合わせると15万七、八千人の入り込み客というところで

ございました。一番新しいデータといたしましては平成23年のデータなんですけども、宿泊客が約4000人と。7300人から4000人に下がっております。で、日帰り客が15万人から12万人と。で、合わせますと12万4000人というようなことです。17年からしますと、3万4000人ぐらいの入り込み客数が減っていると。宿泊者にしますと3000人強少なくなっているという、これはもう現実でございまして。

いろいろ理由はあろうかと思えます。車の中でもお話ししましたように、いろんな行楽地、遊ぶところがふえてきたことによりまして、選択肢が広がったことによって、選択できないちゅうのがあるんだろうと思えます。それから、やっぱりよそに、この泉を選んでいただく。車の中でブランドとかしょっちゅう言ってきましたが、何か、何かが欠けてるのかなというふうに思っております。

そして、もう1つは、委員さんの中から声が出ましたけども、やはりアクセスが、やっぱり道が曲がりくねっているのも、やっぱり何とかせにやいかぬのかなと。もろもろ解決していかなきやいけないのかなというふうに思っています。

その中で、ハードに関しましては、少し時間がかかるのかなというふうに思っておりますので、きょうは平家の里で食事させていただきました。あの中で、おいしかったもの、それから少し工夫をしたらいいんじゃないかっていうもの、それから何ですかね、見せかけがいいですか。（「見せ方」と呼ぶ者あり）見せ方っていいですか、そういうものもあるんじゃないかなと。

また、館自体も、もう少し考える必要があるのではないかなと。そこに象徴されてるのかなというふうに思います。細かいことを一つ一つ積み上げて、来ていただいたお客様がもう

一回来てほしいというふうな、そんな泉にできたらなど。

幸い、これまで地域の組合の方々が施設管理されておりましたけども、ことしから五家荘地域振興会の方々が、7施設、管理していただいています。民間の方々の知恵を出していただきまして、まだまだ途中だと思いますけども、さらにお客様が喜んでいただけるような施設運営あるいは泉全体に、市のほうとしましてはPRに多分、力を入れていくんだろうと。

あるいは仕掛けづくりに力を入れていくんだろうと、思ってますけども、地域振興会、五家荘の方々と連携して、もっともっとふえるように。幸い、平成23年は宿泊者が4000人と言いましたが、去年は3500人でしたので、500人ぐらいちょっと、23年はふえております。この右に、ふえた、上昇しているこの流れを崩さないようにふやしていけたらなというふうに考えているところです。

以上です。

○委員（田中 茂君） ありがとうございます。

○委員長（百田 隆君） いいですか。

○委員（田中 茂君） はい。

○委員長（百田 隆君） ほかにありますか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○委員長（百田 隆君） それじゃ、質疑、御意見等も出尽くしたようでございますので、以上で商工観光部所管施設についての管内調査を終了いたします。

・産業・経済の振興に関する諸問題の調査（八代港の整備の進捗状況について）

○委員長（百田 隆君） 次に、八代港の整備の進捗状況について、執行部から発言の申し出がっておりますので、これを許します。

○商工観光部次長（宮村明彦君） はい。

○委員長（百田 隆君） 宮村商工観光部次

長。

○商工観光部次長（宮村明彦君） はい。大変お疲れのところ申しわけございません。

八代港の整備の進捗状況についてという一枚物をごらんいただけたらと思います。

座って説明させていただきます。よろしくお願いいたします。

担当委員会は、所管委員会は建設環境委員会になりますけれども、八代港の整備ではなくてその活用については経済企業委員会の皆様方にも御存知いただけたほうがいいのかと思ひまして、報告をさせていただきます。

これはどういうものかといいますと、表をごらんいただきたいと思いますが、比較表をごらんください。

これまで全体事業費は94億円、完了予定は平成24年度。ですので、3番目になりますが、供用開始は25年度というふうに皆さん方にお知らせをしております。

ところが、平成23年度に見直しを行いました、全体事業費は94億円から139億円に膨れたところでございます。で、完了予定といたしまして、24年度完了が31年度ということになりまして、供用開始も平成32年度というふうになったということをお知らせをさせていただきます。

その理由といたしましては、そこに書いておりますが、まず1番目でございますが、岸壁改良構造の見直し。図が描いてありますけども、要は赤い部分、大ざっぱな言い方をすると、その赤い部分の強度を増したということでございます。その文章を読ませていただきますが、採択時は、既存の土質資料を用いて構造断面を設定していたが、その後、地震動の観測及び地盤調査を実施した結果、土圧軽減及び泊地強度を増す改良に係る事業費が増加したと。地震対策で強度を増すために、事業費が膨れたということが1つでございます。

もう1つが括弧の2、②なんですけども、浚渫工法を見直したというものでございます。採択時におきましては、ポンプ浚渫工法で設定をしておりました。しかしながら、船舶が輻輳する、船が行ったり来たり往来する区域において、浚渫作業船による航行船舶への影響を考慮し、——どういふものかと言いますと、ポンプ浚渫船というものは、船が動かないようにアンカーを打って動かないようにして、バキュームカーみたいな、要は掃除機みたいなもので吸い上げる工法でございませう。そういうものを一たん設置いたしますと、なかなか移動ができないということございませう。で、作業船による航行船舶への影響を考慮し、浚渫延長約1.2キロのうち、約1.9キロについて待避等に時間を要するポンプ浚渫工法から、待避等の時間が少なく、日々の進捗が図られるグラブ浚渫工法への変更に係る事業費が増加した。

グラブ工法といいますのは、グラブ、グローブみたいなものでどしゃっと海の中に入れてつかんで上げると。で、船に載せると。

繰り返しますと、ポンプ浚渫といいますのは掃除機の先みたいなので水も土砂も全部吸い上げると、そういうもの。しかしながら、それというのは、船舶が行き来するところで邪魔になっても、なかなかすぐは移動ができないということ。ここの場所は、非常に船が行き交うもんですから、それではなかなか迷惑がかかる。で、どしゃっと落としてグラブみたいにつかんで土砂する、船の航行を妨げないように移動ができると。比較的短時間で移動できるので、そちらのほうに見直しましたというものでございませう。

しかしながら、そうしますと若干、期間とお金がかかってしまうというようなものでございませう。それが丸の事業費の増減理由の2つでございませう。

それと、もう1つが供用時期の変更理由とい

ますのは、浚渫土砂の処分場の整備工程の見直しのため。要は、浚渫土砂の捨て場を見直しているというようなことございませう。

繰り返しますが、大きく、本日お話し、御報告させていただきたいのは、これまで、完成はことし平成24年度、94億円で完成ですと言ってたものが、139億円の平成31年度完成予定に変わりましたということの御報告でございませう。

以上でございませう。

○委員長（百田 隆君） 以上の分について、何か御質問、御意見等ありませんか。

○委員（田中 茂君） はい。

○委員長（百田 隆君） はい、田中委員。

○委員（田中 茂君） はい。これは、次長、当初のですね、今まだ2バースということはないですよ。1バースでこんなにおくれるということですか、工費がかかって。

○商工観光部次長（宮村明彦君） はい。

○委員長（百田 隆君） はい、宮村商工観光部次長。

○商工観光部次長（宮村明彦君） 田中委員さんがおっしゃっているとおりでございませう。まだ第2バースの着工は見ておりませう。1バースの、これまで説明させていただいておりますように、岸壁と船がぐるっと回る泊地と航路の一部でございませう。で、今後、その航路を掘り浚渫するに当たって、このような経費がかかっていくというものでございませう。我々としたしましては、早期の第2バースの着工を今、お願いしているところではございませう。

以上です。

○委員長（百田 隆君） ほかにありますか。

○委員（前川祥子君） はい。

○委員長（百田 隆君） はい、副委員長。

○委員（前川祥子君） はい。浚渫したときの泥をどこに持っていくかという話ですけども、今のところ、どこに持っていくっていうのは。

○商工観光部次長（宮村明彦君） はい。

○委員長（百田 隆君） はい、宮村部次長。

○商工観光部次長（宮村明彦君） 今のところ、加賀島のほうに持っていつているところがございます。

○委員（前川祥子君） はい。

○委員長（百田 隆君） はい、副委員長。

○委員（前川祥子君） で、それがもういっぱいになったら、違うところという話になってるんですか。

○商工観光部次長（宮村明彦君） はい。

○委員長（百田 隆君） はい、宮村商工観光部次長。

○商工観光部次長（宮村明彦君） いっぱいになりましたら、大築島の北に、あれ何ていうかな、かさ、さらにかさ上げをしまして、壁のかさ上げをしまして、捨てようというふうを考えているところで、土砂を処分しようと考えているところがございます。

○委員（前川祥子君） はい。

○委員長（百田 隆君） はい。

○委員（前川祥子君） その大築島へのかさ上げをするという話はもう、国と県という形で話はほぼ決まっているんですか、先のことは。

○重点港湾八代港営業隊長（高崎 正君） はい。

○委員長（百田 隆君） 高崎重点港湾八代港営業隊長。

○重点港湾八代港営業隊長（高崎 正君） 今の件につきましては、話は進んでいるというところですけども、あと、ただいま申しあげました大築島の北の地区でかさ上げをして対応していきますけれども、それでも全体の土量には足りないという状況でございます。

で、それをどうするのかというのは、当初予定では、大築島の南のほうにですね、新しく土砂捨て場のほうを設定しまして、そちらのほうに入れるという予定で始まったところなんです

けども、これは県のほうの事業になりますけれども、予算等の都合で、そこが平成21年を最後にストップしているような状況でございます。なので、こちらにつきまして、今、国と県のほうで、この事業について、どうするかというところを調整をさせていただいているという現状でございます。

○委員（前川祥子君） はい。

○委員長（百田 隆君） はい、前川副委員長。

○委員（前川祥子君） そうしましたら、これがスムーズにいかないと、浚渫もこれ以上にまた遅くなる可能性もあるってということになりますよね。どうでしょう。

○商工観光部次長（宮村明彦君） はい。

○委員長（百田 隆君） はい、宮村商工観光部次長。

○商工観光部次長（宮村明彦君） はい、そうならないように要望してまいりたいと思います。

○委員（前川祥子君） はい。

○委員長（百田 隆君） はい、前川副委員長。

○委員（前川祥子君） 供用が25年度っていうのがですね、32年度になるってことで、非常にこれ長くなったなあと。もしかしたら、また、その後もおくれるんじゃないかなっていう、ちょっと、今のお話からいったら懸念もあるんですよね。この7年をもう少し短くできるように、なるべくですね。で、ここで経済効果が本当に上がることを楽しみにしているものから、ぜひとも、これをもう少し短くできるような形にも、ぜひしていただきたいなど。これは決定なのかもしれませんが、今後の国や県との調整などや、打ち合わせなんかにしても、ぜひやっていただきたいなと思います。

○商工観光部次長（宮村明彦君） わかりました。

○委員長（百田 隆君） ほかにありますか。

○委員（田中 茂君） はい。

○委員長（百田 隆君） はい、田中委員。

○委員（田中 茂君） はい。それと、クルーズ船の関係なんですけど、今、ここにも図が描いてありますようにですね、今回のコスタ・ビクトリアもこの位置に停泊されたんですが、クルーズ船というのは、大体ここに決まっているのかどうかですね、停泊位置。それと、今14メートル岸壁が建設されているところはですね、ここは現在では12メートルであって、14メートルも進んでいるっつうことですが、確かにコンテナのガントリーのところとですね、それから、今、荷役設備がたしかあってですね、そこがちょっとクルーズ船には無理なのかなというようなものもあるんですが。

それと、現実にも今、12メートル岸壁のところはですね、月に今、何日使っておられるかわからないんですが、少なくとも5日以内ということで、非常に少ないんじゃないかということも聞いているわけですね。そういうこともありまして、クルーズ船自体も大型船だったら、その12メートルあるいは今の建設中のところに接岸の検討ができないのかどうかですね。そこいらは、どうなんでしょうか。

○委員長（百田 隆君） 高崎重点港湾八代港営業隊長。

○重点港湾八代港営業隊長（高崎 正君） はい。今、御案内がございましたように、10月の20日、21日、7万5000トンのコスタ・ビクトリア号というのが八代港のほうに入港いたしました。場所につきましては、10メートル岸壁の第1バースと第2バースを使いまして、入れたというところがございます。貨物船と違いましてクルーズ船といいますのは、非常に喫水——海の下の部分というのが浅くてございまして、10メートルあれば十分入れるというところの判断で入れているというところでご

ざいます。

今御案内がございました、まず、客船が入る位置につきましては、特に10メートルに入れなさいということは決まっておられません。はい。

ただ、今回の船につきましては、以前、平成21年の3月になりますけども、船舶が安全に入れるかどうかという調査を行っているんですけども、そのときのシミュレーションが10メートルのほうの岸壁だったということがございまして、その岸壁を使用したというところがございます。

で、今後、今御指摘のように14メートル岸壁の部分を使えないのかという御質問につきましては、これにつきましても、また新たな調査をやって安全に船が着けるといことが確認されれば、そちらのほうの岸壁にも十分着けるといことになります。

あと、その14メートルのところを今、荷役機械、具体的にはアンローダーという機械がついているんですけども、トウモロコシ等の船が着いた際に、それをバキュームで吸い上げる機械になります。こちらにつきましては可動式になっておりますので、船が、クルーズ船が例えば入るとなった際には、少し位置をずらす等で対応は可能ということで、聞いております。

以上でございます。

○委員長（百田 隆君） はい。ほかにありますか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○委員長（百田 隆君） なければ、以上で八代港の整備の進捗状況についてを終了いたします。

そのほか、当委員会の所管事務調査について何かありませんか。

○委員（田中 茂君） はい、委員長。

○委員長（百田 隆君） はい。

○委員（田中 茂君） 観光施設がですね、も

ちろん紅葉のシーズン等があるんですね、今回は五家荘に限定したってこともあるんですが、八代にもほかにも観光地がありますので、それについては、当委員会として視察等が考えられるのかどうか、そこいらをお尋ねしたいと思います。

○委員長（百田 隆君） ほかに八代のところで――。

○商工観光部次長（宮村明彦君） はい。

○委員長（百田 隆君） はい、宮村商工観光部次長。

○商工観光部次長（宮村明彦君） はい。朝からお話しいたしましたように、観光施設としまして、まだまだたくさんございます。東陽、坂本、それから平地、日奈久、等々でございますので、もしも、お時間あるいはそのような御希望がありましたら、全部はなかなか見れませんので、また選抜っていいですか、施設を絞りまして御案内させていただきたいと思います。

きょうも現況とそれから修繕等の箇所、それからその運営状況等を見ていただきましたけれども、どのような視点で見るかによって、何を見るかっていうようなことになってこようかと思っておりますので、その辺を事務局あるいは委員長、副委員長とも御相談させていただければ、我々としては御案内させていただきます。

以上です。

○委員長（百田 隆君） はい、わかりました。

ほかにありますか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○委員長（百田 隆君） ないようでございますので、本日の委員会の日程は全て終了いたしました。

これをもって経済企業委員会を散会いたします。

（午後4時38分 閉会）

八代市議会委員会条例第30条第1項の規定により署名する。

平成24年10月23日

経済企業委員会

委員長